

【様々な戦いに対する防備と勝利②-真理の帯-】

説教者:鄭南哲牧師

聖書本文:エペソ人への手紙6:10-14節・暗唱聖句:ヨハネ14章6節・1テモテ2章4節



〈先週のおさらい〉

我らの人生の中では絶えず霊的な戦いがあることを申しました。だれと戦いでしたか。悪霊のかしらサタンと天にあるもろもろの悪霊たちとの戦いであることを聖書は教えて下さっています。今日の本文のエペソ人への手紙6章11-12節には我々の戦うべき対象についてこのように教えて下さっています。

「11悪魔の策略に対して堅く（立ち向かう）立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。12私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。」

11-12節では11悪魔の策略に対して堅く（立ち向かう）立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。12私たちの戦いの対象は血肉に対するものではなく、支配、力、悪魔とこの世のもろもろの悪霊にたいするものだと教えて下さっています。決して人ではありません。教会の家族とか、関わっている人々との戦いではないことだと学ばされました。我々が戦うべき対象がだれであるかいつも覚えなければなりません。

いつも敵を見極めることが大切です！敵がだれなのかを正確に把握しない限り、私たちが間違った対象に激しく戦ってしまうことがないように気を付けましょう。これはある意味で当たり前の話で、とても簡単なようですが、実はとても混乱しやすい難しいことだと思います。意外と多くの方は、自分の敵がだれなのかを知らずにいます。しばしば私たちは、ある出来事やきっかけにより愛すべき家族や夫、あるいは妻が敵のように戦おうとする人たちがいます。一緒に暮らしている隣人や同じチームで共に協力すべき職場の同僚とか、時には自身さえも敵とみなして攻めてしまう時があり、打ち勝とうとして責めたり、苦しめたり、無理やりに押さえつけようともします。あるいは、逆に自分や自分の家族以外は、誰でもみんな自分たちに害を与えようと戦うべき敵みにみなし、警戒し、自分の家を城見たいに作ろうとし、外部との交流を遮断し、閉鎖的に生きようとする方々もいます。

愛する信仰の家族のみなさん！だまされないように気を付けましょう。悪霊どもはみなさんを絶えず惑わし、愛し合うべき関係をお互い憎しみ合い、戦い合って打ち壊し、分裂させ、自滅するようにさせようと攻めて来ているのを忘れないで下さい。愛する人々、教会の家族や関わっている人たちが敵のように激しく戦うべき憎悪（ぞうお）の対象ではなく、お互いに神様の尊い作品であって、共に支え合い、愛し合うべき対象であることを心にとめておきましょう。

「12私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。」、「身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。（ペテロの手紙第一5章8節）」

そして、私たちが強められ、彼らとの戦いにおいて十分に對抗し、勝利を治めていくためには、神様のすべての武具を取り、身につけなければならないように教えて下さいました。「13ですから、邪悪な日に際して對抗できるように、また、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。」

しかし、神様の言われたこの神のすべての武具というのは、決して特別な武器とか、何かの新武器では決してありません。それは当時、ローマの兵士たちを描きながら、軍人であるならば、もっと基本的に武装であることだと教えられました。14-17節からは神様のすべての武具について14節に「そして、堅く立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、15足には平和の福音の備えをはき、16これらすべての上に、信仰の盾をとり、17救いのかぶとをかぶり、御霊の剣を捕りなさい」と言われました。腰には真理の帯を、二つ目は、胸には正義の胸当てを、三つ目は足には平和の福音のそなえを、四つ目は信仰のおおだてを、五つ目の頭には救いのかぶとを、最後の六目には御霊のつるぎであることが分かります。この神のすべての武具6つとは、真理の帯、正義の胸当て、平和の福音、信仰の盾、救いのかぶと、御霊の剣は信仰の特別なことではなく、すべて信仰の大切な土台、基本のことであることが分かります！事実皆さん、この神様のすべての武具というのは私たちにまったく知らない特別なことではありません。当時、ローマ軍人の姿を想像して見てください。神様の願われているのは打ち勝つための特別な武具を身につけることではなく、戦いに出る兵士、軍人として義務であるもっとも基本的な武装を言われているのです。みなさんがクリスチャンであるならば、ここに提示されていることは、特別な高い信仰のレベルのものではなく、信仰の生活においては一番基礎的な基本的な信仰の部分であることが分かります。信仰生活においては信仰の基本に充実することこそが大切だということ強調して下さい。神様は私たちが激しい霊的な戦いや攻撃において日々對抗し、勝利し強き者になるために何か新しい信仰の方法や特別な秘訣があることを教えようとはしません。多くの人々が霊的に失敗し、信仰が弱まってくる理由は信仰の高いレベルになれなかったわけではなく、このクリスチャンの基本武装、つまり基本的な信仰の土台がきちんと出来ていないためであることを私たちは覚えなければならないことを教えて下さっているのです。

この神のすべての武具である信仰の基本をどう整え、身に付けられるでしょうか。

シンプルで、簡単です！神のすべてのものだから、神様に求めることからでしょう。

詩篇20篇7節「ある者は戦車を、ある者は馬を求める。しかし私たちは私たちの神、主の御名を呼び求める。」

詩篇28篇7節「主は私の力。私の盾。私の心は主に拠り頼み、私は助けられた。」

神のすべての武具を身につけなくては、決して戦いには対抗し、打ち勝つことが出来ない、つまり、神によらなければ、この戦いにシュ分に対抗し、勝利することが出来ない事、すべてのこの霊的な戦いの勝利は、神の御手にあることを教えて下さっています！

私たちも徹底的に神様の助けと力がなしでは、自身の頭と力では、決してサタンとの策略に打ち勝つことはとうてい無理なのです！自分の才能や知能などは関係ありません。神様の方法と神様の御言葉のみです。‘悪魔にとって適当はない’という事実を忘れないでください。しかし、同時にこの聖書の約束の真理を覚えましょう。

神様はこの戦いに私たちがよわよわしくいつも負けばなしの人生となる者として呼んで下さっていません。神様の子供として、そしてキリストの信仰の兵士としてしっかりと整えられれば、いつでも！必ず！サタンと悪霊どもとの戦いにおいて、確実な勝利を約束し、その神の勝利を味わらせるために私たちを召して下さったのです。

申命記1章29-30節「それで私はあなたがたに言った。「おののいてはならない。彼らを恐れてはならない。あなたがたに先立って行かれるあなたがたの神、主があなたがたのために戦われる。エジプトで、あなたがたの目の前で、あなたがたのためにしてくださった同じように。」

イザヤ書41章10節「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」

聖書は私たちに足りない戦闘力で戦いなさいとは言っていません！いつもサタンより、圧倒的上回る神の御力と知恵、御助けによって、戦い制圧し、勝利をおさめなさいと神様は我らの為に、我らに命じておられます。

今日の御言葉を通して、今直面しているさまざまな戦いや問題に打ち勝つため、油断せず、絶えず謙遜に神に頼り、委ね、神の力によって戦い続ける大切です。

<戦いが続いている時は、決して油断してはいけません！>

愛するクリスチャンブレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！基本に充実している人はむしろ自分はいつも強いと、問題ないだろうと、油断したり、自慢しません。もう大丈夫だろうと油断してはいけません！しかし、多くの信仰の人物たちの中では、もう良いだろうと、もう自分は安全だ！自分はもう強い！と油断してしまった結果、大きな失敗を招いてしまった人々がいました！信仰の父と呼ばれたアブラハムも、イスラエルの素晴らしい神の指導者であったモーセも、神の御前で誠実だったダビデ王も、だれより熱心で勇敢なイエス様の弟子だったペテロさえもしばらく油断しているその隙間に試みられ、人生の大きな失敗を招き、辛い経験をしたことが分かります。いつも基本に忠実な人は、生きておられる神の御前で、いつも自分の弱さや限界、自身の足りなさをよくしているため、謙遜に自分自身をよく顧みる者であり、自分をよく点検し、神の大能に頼り、備える人だと信じます。

<真理の帯を締めなさい！>

それでは、その霊的な戦いに対抗し、勝利を収めるため、我らが備え、身に着くべき、神のすべての武具の中一つ目は何でしたか。今日の本文エペソ6章14節の前半を見ると、「そして、堅く立ちなさい。腰には真理の帯を締め、」と書かれています。いったいなぜ使徒パウロは武装されたローマ軍人を思い浮かべながら、霊的な戦いにおいて一番初めに、真理の帯をしっかりと締めるようにとしたのでしょうか。まず、帯を締める、身体の中で腰の重要性はいくら強調しても過言ではないでしょう。腰は、私たちの体全体を支えてくれる主軸(しゅじく)のような役割をし、下半身と上半身を繋げる力の根源だと言えます。それにまず、帯を締めると腰をしっかりとささえてくれることによって、あらゆる行動や働くときに、安定を維持してくれます。

特に、当時ローマ軍人の腰の帯というものはあっても、なくてもならないものではなく、むしろ、軍人にとっても重要で、欠かせない大事な役割と技能を果たしていた武具の一つであることが分かります。

当時ローマ軍人たちは、腰に幅が広い帯を締めたそうです。そこにはたくさんの武器を入れることも可能で、自分の非常食糧をもつけることが出来たそうです。そして、武装されたままきちんと引き締め、維持させる役割をさせるものなので、帯を締めているということは、いつ戦いがあっても、その対抗が十分に出来る体制を整えさせる機能をしていました。何よりも戦いの際に戦いに身につけている武具がさまたげにならないように、引き締めちゃんと固定させ、ただひたすら戦いに集中できるようにさせる役割をしていたことが分かります。

結局、戦いに出る軍人が腰の帯を締めるというのは、これから本格的に戦いに向けてもう備えられているというサインであって、軍人としてこれからの目の前にある戦いの中に体も、心もすべてちゃんと集中している意味でもあります。

我らの霊的な戦いにおいても、同じく、神様がまず、この真理の帯をしっかりと締めるように命じられているというのは、これから霊的な戦いにむけて心を引き締め、ひたすら焦点をおいていかなければならないことではないでしょうか。

それに関してペテロの手紙1章13節ではこう教えて下さっています。「ですから、あなたがたは心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現われのときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。」だと書かれています。

ここで‘心を引き締め’と‘身をつつしみ’は同じ意味です。

結論から言わせて見ると、軍人がこれからの戦いに戦って勝利するために、まず腰の帯をしっかりと引き締めなければならぬように、これから戦いに挑むために、対抗し続けるために、戦える心の備えと体制をしなければなりません。

帯でしっかりと身を引き締めなければ、戦いにしばらく挑んでも、引き続き戦い続けられないのではないのでしょうか。

それではここで、真理の帯というのは何でしょうか。

①真理の神の御言葉

「真理の帯」で具体的に、「真理」というのは何を指し、意味しているでしょうか。

- **詩篇119篇43節**「私の口から、**真理のみことば**を取り去ってしまわないでください。私はあなたのさばきを待ち望んでいるのです。」
- **箴言22章21節**「これは、あなたに**真理のことば**の確かさを教え、あなたを遣わした者に、**真理のことば**を持ち帰らせるためである。」
- 伝道者の書12章10節「伝道者は適切なことばを探し求め、**真理のことば**をまっすぐに書き記した。」
- コリント人への手紙第2章7節「**真理のことば**と神の力とにより、また、左右の手に持っている義の武器により」
- ヨハネの福音書17章17節「真理によって彼らを聖別してください。**あなたのみことばは真理です。**」
- エペソ人への手紙1章13節「このキリストにあって、あなたがたもまた、**真理のことば**、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。」
- コロサイ人への手紙1章5節「それらは、あなたがたのために天にたくわえられている望みに基づくもので、**あなたがたに届いた福音の真理のことば**によって聞きました。」

我らが様々な霊的戦いにおいても打ち勝つためには、まず、この真理の御言葉なる帯を身にしっかりと締めなければなりません。「身にしっかりと締める」というのはどんな意味でしょうか。いつも自分の中に、神の御言葉から離れないことではです。日々神の御言葉を自分の心の中にとめておくことであり、真理の帯をしっかりと締めて、戦いに出ていくことは、神の御言葉通りに徹底的に従い、御言葉通り守り行うことだと信じます。

愛する信仰の家族のみなさんは一週間いかがでしたか。真理の帯なる神の御言葉から離れてなかったでしょうか。神の御ことばは単なる書物ではなりません。時代が変わり、人が変わり、世界が変わっても永遠に変わらない神の真理と力となる御言葉をしっかりと握りしめることこそ、人生の様々な戦いにおいて正しく見分け、十分に戦い続け、ついに打ち勝つ力となる神から、我らの勝利のためのものだと信じます。

真理の神の御言葉が我らの心と思いを、人生の歩みを守ってくださいます！！

- **箴言30章5節**「神のことばは、**すべて精錬(せいれん)**されている。神は、ご自分に身を避ける者の盾。」
- **ヘブル人への手紙4章12節**「**神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髓(こつずい)の分けるまでに刺し通し、心の思いやはかりごとを見分けることができます。**」

愛する信仰の家族のみなさん！

もう一度、今日から、どんなに疲れても、どんなに忙しくて、一生神の御言葉から離れる時がないように心かけ、真理の帯なる神の御言葉によって、どんな戦いが襲っても、十分に戦い続け、勝利を治めて生ける全信仰の家族となりまますように切にお祈り申し上げます！アーメン！！

②真理なるイエスキリストご自身

真理の帯で真理というのは何を意味しているでしょうか。それは、真理なるイエスキリストご自身です。

ヨハネの福音書1章14節では、この真理のことばが人となって、我らに來られ、私たちの間に住まれたイエスキリストご自身であることを明らかにして下さっています。「**ことばは人となって、私たちの間に住まれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから來られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。**」

イエス・キリストはこう言われました。**ヨハネの福音書14章6節**に、「**イエスは彼に言われた。「私は道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。(ヨハネ14:6)**」と言われました。

エペソ人への手紙4章21節「ただし、本当にあなたがたがキリストについて聞き、キリストにあって教えられているとすれば、です。**真理はイエスにあるのですから。**」

様々な霊的戦いにおいて打ち勝つためには、真理の帯をしっかりと締めなければなりません。それは、真理であられるイエス・キリストを受け入れ、信じ頼り、ひたすらイエスキリストにあって、キリストとともに歩み続け、救いの道、勝利の人生に歩み続けることが出来るでしょう。

我らの勝利の鍵は、日々、イエスキリストとの関係にかかっているのです！イエスキリストと愛の中にすがり、キリストの恵みにとどまり、ひたすらイエスキリストだけを見上げ、イエスキリストとともに歩むことでしょう。

今日多くのクリスチャンたちの問題は何ですか。イエスキリストを受け入れて、信じていると言いながら、実際の生活の中では**“主だけを見上げます。”**ではなく、**“主をも見上げます”**ということです。どういう話か理解できますか。

イエスキリストを自分の人生の唯一の救い主として、導き手の主として、神様だけを頼っていきまると言いながら、実際、人生の悩み事や試練がやって来ると、心は分かれてしまい、イエス様から目が離れてしまい、イエス様だけではなく、イエス様も半分たより、自分自身も半分頼り、人も頼り、お金も頼り、ほかのものをもたよってしまいます。

ベトナム戦争の時にも、韓国戦争の当時にも相手の軍人の集中力と意欲を喪失させるのに用いられた一つの方法がありました。例え、一般庶民の母親や妻、家族の人たちの声をスピーカを通して流したそうです。“戦争中は大変ではないの、家族たちには会いたくないのか。こちらは会いたいよ”と。すると相手の軍人たちは戦争に集中できず、しばらくさまざ

まな考えに入り込んでしまいます。‘もう家に帰りたい、戦おうとしても今の状態ではもう無理。戦争で命をかけながら戦う意味がない、それより、僕の命が大事だから、これ以上戦うのをやめよ’ 言いながら降参(こうさん)するようにとすすめます。これが兵士たちの心を分散させ、やる気を無くし、責任を逃すようにさせる戦略でした！
信仰の生活においても一緒です。霊的戦いにおいて無気力にさせ、心を分散させて、敗北と落胆に陥らせようとする悪しき者の策略であることを忘れてはいけません。サタンは絶えず、我らがイエスキリストから目を離し、心が離れさせ、集中出来ないように、信じ頼り続けられないようにする戦略を持って攻めて来ているのを忘れないで下さい。

霊的戦いで勝利するためにはどこからもう一度初めるべきでしょうか。そうです。もう一度“single focus”を我らの心、まなざしをもイエスキリストに固定させることからです！

使徒パウロは、我らにこう勧めて下さっています。**ピリピ人への手紙3：13-14節**「兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、**14キリスト・イエスにあって神が上に召して下さるといふ、その賞をいただくために、目標を目ざして走っているのです。**」パウロは最後まで、ただ一つだけ！ひたすら、イエスキリストのみを目指して、見上げて、頼りて走って来た人生だったため、彼は強かったのです。彼は当然勝利の人生を送ることができました。パウロの人生は一言で、神様の武具で説明するなら、真理の帯をしっかりと引き締めた人生だったと言えるでしょう。

神様にとくとく用いられた数多くの人々はとっても単純な人生を過ごした人たちでした。

ただイエスを見上げるそのまなざしから一生目を、心を、信仰を離さなかった人たちでした。忙しい時も、疲れた時も、悩む時も、苦しい時も、イエスキリストだけを信頼し、ただイエス様だけを抱いて生きた人たちだったためむしろこの世が彼らに打ち勝つことができませんでした！

マタイの福音書4章を読んで見ますと、荒野でイエス様の40日間の断食の祈りをされた直後サタンは肉体的に疲れ、弱くなっていたイエス様にその瞬間を狙って試みました。その時、サタンが願ったことは何だったと思いますか。これから公に働かれようとしているイエスさまの十字架の道に進めないように、そしてその主の使命と心をも分かれさせるためでした。イエス様にでさえしつこくこころみを与えたサタンであるならば今日の私たちにはなおさらではないでしょうか。

おぼえてください。**悪魔の試みの特徴はいつも同じです。**それは**分かれさせる**ことです。今日サタンが家庭に与える攻撃は何ですか。夫が妻から、妻が夫から心が分かれ、離れ家庭が崩れるようにしようとしています。教会の礼拝の時にもしきりに変な考えなどで集中できないようにと邪魔します。信仰の生活をしている人々には一つの教会には満足せず、二つ、三つの教会に通いながら信仰の根をおろすことができないようにさせます。そしてそれだけではなく、教会員の間で分裂を起こし教会自体を分かれさせようとする場合もしばしばです。クリスチャン同士の心が分かれ、互いに愛し合えないように、そして互いに仕えあえないようにと、そしてイエスキリストのみを見上げるのができないようにと試みるこれがまさにサタンの今日の重要な戦略なのです。これをいつも忘れないで下さい。ですから、我々がお互い噛み合ったり、けんかしあったり、してはいけません。葛藤がある時こそ、もっと一つになって祈り合い、補い合い、支え合ってもっとイエスキリストにあって一つの愛と信仰に専念していかなければなりません！

＜4. 神のすべての武具はイエスキリストと関連があり、通じる！＞

実際神様が教えてくださる今日の本文の神様のすべての六つの武具についてよく考えて見てください。実は勝利の**すべての神の武具がイエスキリストにつながっていることが分かります**。真理の帯で**真理**というのはだれですか。**真理はイエスキリスト**でした。**二つ目は正義の胸当ての正義はイエスキリストがすべての罪ある人々の罪赦しのために、十字架で流した血潮のキリストの御業を信じ、受け入れるすべての人を、神は罪赦しの義とみなして下さる**ことです。この義というのはイエスを信じるすべての者たちに与えられる神様からのプレゼントなのです。“**平和の福音のそなえ**”の中**福音**というのは**どんな福音**ですか。だれでも、**イエスキリストが真の唯一の救い主として、イエスキリストを受け入れ、信じる全ての者に与えられる神の救いのお知らせが福音**なのです。**四つ目は信仰の大盾**です。私たちの信仰の対象はだれですか。**イエスキリストを信じる信仰**です。**救いのかぶとも同じです。私たちが救ってくださったイエスキリストによる救い**です。**六つ目は御霊の剣、つまり神様の御言葉**であり、ヨハネの福音書1章14節よれば、その御言葉が人となり、この世に**来られたイエスキリストを指していることが分かります**。

メッセージを終らせたいと思います。愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！今日、日常の激しい霊的戦いにおいて勝利するために、真理の帯をしっかりと締めて置いていかなければなりません。というのはつまり、**真理**である**イエスキリストとその神の御言葉から離れず、いつも心に留め、ひたすらイエスキリストとその御言葉にとどまり、たより、イエスだけを見上げ、イエスキリストとその御言葉に集中する信仰の生き方を保つことが自分が守られ、様々な戦いにおいて、十分に備えられ、打ち勝つことが出来ることを学ば**されました。

すでにイエスキリストは地上でのお生まれの時から十字架に仕なれる最後の時まで、サタンは攻撃し、戦って来ましたが、イエスキリストは神の御言葉を用いて、キリストの御名によって、すべての戦いと死を打ち破り、御名による勝利をおさめられた**我らの救い主**であることを知っています。今我らもみんなもう一度イエスキリストの真理の帯をしっかりと締めて、今もともに**おられるインマヌエルのイエスキリストから離れないように気をつけ、いつも主とともに歩め**キリストの勝利がクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族の勝利となりますようにお祈り致します。アーメン！